

授業概要

ヨーロッパ地域文化の特質は、ここ半世紀以上にわたって常に西洋史の研究界の議論の焦点となってきた。それはまずレスター学派の「地方史」研究から始まり、「ケンブリッジ・グループ」による歴史人口学の導入と家族形成行動分析の実践に受け継がれ、いまやアジアなど非ヨーロッパ社会と地球規模での家族形成パターンの比較を試みるに至っている。本講義は、我々にとって異文化である西欧特に英国の文化を他の文化と対比する学術的方法の最先端の分野である家族構造分析の一連の成果を学ぶことを通して、英語文化圏の社会とその歴史を理解することを目的とする。

授業計画

| | |
|------|--------------------------------------------|
| 第1回 | 講義概要 受講心得 |
| 第2回 | 地域社会文化へのまなざし①：レスター学派：フィンバーク「ローカル・コミュニティ」 |
| 第3回 | 地域社会文化へのまなざし②：レスター学派：ホスキンス『ミッドランドの農民』 |
| 第4回 | 地域社会文化へのまなざし③：レスター学派：サースク「チャンピオン」と「ウッドランド」 |
| 第5回 | 地域社会文化へのまなざし④：レスター学派：サースク地域文化としての「産業革命」 |
| 第6回 | 家族形態へのまなざし①：ハイナール「ヨーロッパ型結婚パターン」 |
| 第7回 | 家族形態へのまなざし②：歴史人口学の衝撃 a:ルイ・アンリ「家族復元分析」 |
| 第8回 | 家族形態へのまなざし③：歴史人口学の衝撃 b:ラズレット『われら失いし世界』 |
| 第9回 | 家族形態へのまなざし④：歴史人口学の衝撃 c:「ネオ・ローカリズム」と奉公人制度 |
| 第10回 | 家族から「工業化」へ①：フランクリン・メンデルス「プロト工業化」論 |
| 第11回 | 家族から「工業化」へ②：マクファーレン「イングランド個人主義の起源」と資本主義 |
| 第12回 | 家族から「工業化」へ③：リグリー「高度有機経済」と「鉱物エネルギー経済」 |
| 第13回 | ジョーンズ「ヨーロッパの奇跡」①：気候風土・人口・家族の地球規模での比較 |
| 第14回 | ジョーンズ「ヨーロッパの奇跡」②：「諸国家併存体制」のもたらしたもの |
| 第15回 | 講義総括 質疑応答 |
| 第16回 | 筆記試験実施 論述式 |

到達目標

西洋世界とくに英米文化圏の文化的特徴が、地域社会・家族形成という社会の基盤においてどのように表れるかを学び、「市民社会」と「工業化」を世界に先駆けて実現した文化的条件について、しっかりと理解する。また近年の地球規模での諸文化間の比較研究の成果を学び、それら異文化と対比して、東アジア就中日本社会の文化的特質について、自分の意見を持つこと。

履修上の注意

講義は高校「世界史」の知識を前提として進めるので、もう一度「世界史」教科書を読み直し、知識のブラッシュアップを十分にしておくこと。また合わせて「西洋史学入門」・「西洋史概説」・「西洋史特論Ⅲ（近現代）」の受講を推奨する。理解の深化のためレポートを課す。また知識定着度を測るため計5回の小テストを実施するので、もれなく受験すること。

予習・復習

毎回授業時間の終わりに次回授業内容のキーワードを示すので、十分に下調べをしておくこと。疑問・質問は、授業時間内に質問コーナーをとくに設けるので、積極的に質問し解決を図ること。授業後ノートの拡充に努めること。

評価方法

定期試験・小テスト・レポートのそれぞれの成績を総合して評価する。その配分基準は、定期試験60%、小テスト20%、レポート20%とする。小テストは計5回授業内に実施予定。

テキスト

教科書は用いない。参考図書は必要に応じて授業内に紹介する。